

課題研究への取組

～「アジアの中での共生」をテーマとして～

県立成田国際高等学校

1 はじめに

本校（各学年普通科5クラス・国際科3クラス）は、①外国語教育（英語教育の充実と第二外国語〔中・韓・仏〕）、②海外姉妹校との交流（短期留学・修学旅行）、③外国にルーツをもつ生徒（外国人入学者・留学生）の受け入れ等、国際高校として独自の教育活動を行ってきた。

平成27(2015)年度からは、文部科学省スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受け、1・2年生全員が共通テーマ「アジアの中での共生」のもと、《多文化共生》《観光》《教育》《環境》の4分野から独自にテーマを設定し、課題研究に取り組んでいる。

2 課題研究の概要

課題研究は学校設定科目で、1年次の「課題研究基礎」と2年次の「課題研究発展」が1単位・必修科目、3年次の「課題研究活用」が2単位・選択科目となる。

1・2年次の課題研究は、問題意識や興味を共有するメンバーの協働作業によって進められ、主体的・対話的な学びを体験することで、現代社会に対する問題意識と教養を深めるとともに、次の七つの資質・能力が高まることを目指している。

- ①課題発見・問題解決能力
- ②論理的思考力
- ③コラボレーション能力
- ④コミュニケーション能力
- ⑤企画力
- ⑥異文化受容性
- ⑦日本文化理解・発信

また、課題研究の2年間の流れは、以下のとおりである。

〈1年次〉	
①	グローバル化と現代の課題(4月～6月)
②	国内フィールドワーク(9月)
③	テーマ設定(10月～11月)
④	情報収集・分析(12月～1月)
⑤	中間発表(2月)
〈2年次〉	
⑥	問題点の再検討(4月～6月)
⑦	ミニポスター発表(7月)
⑧	海外フィールドワーク(8月・希望者)
⑨	発表準備(9月～10月)
⑩	最終発表会(11月)
⑪	代表グループ発表(1月)
⑫	レポート提出(2月)

3 教材開発、フィールドワーク、課題研究テーマ、評価等

(1) ロールプレイ教材の開発（1年次）

「ペナン島とグローバリゼーション～進むべき未来を考える～」を開発した。マレーシアのペナン島の未来について、工業化、リゾート開発、ジョージタウンの世界遺産認定、伝統的な漁村等の側面から議論する。生徒は六つの立場（①大資本、②飲食チェーン店、③ペナン・ヘリテージ・トラスト [NGO]、④零細漁民、⑤地域住民、⑥政策委員会）に分かれ、利害関係について議論を行うものである。社会問題について多角的に考え、それぞれの立場から相手に分かりやすく伝えることを目的とした。事前ガイダンスの際には、教員によるデモンストレーションも行った。



教員のデモンストレーション 教室でのロールプレイの様子

(2)国内フィールドワーク（1年次）

生徒全員が参加する国内フィールドワークは、《多文化共生》《観光》《教育》《環境》の各テーマに基づく8コースを設定している（9月に実施）。国内フィールドワークの事前に研究グループの編成を行い、事後の報告会を経て、10月より本格的な研究活動が始動する。

	分野	目的	訪問先
①	多文化共生教育	フリースクールとインターナショナルスクール訪問調査	多文化フリースクール千葉 葛西インターナショナルスクール
②	多文化共生教育	在日ブラジル人コミュニティを訪問調査	群馬県大泉町
③	多文化共生教育	在日ムスリムコミュニティを訪問調査	東京ジャーミイ(モスク) 神田外国語大学
④	観光	外国人観光客へのインタビュー	浅草仲見世通り周辺
⑤	観光・環境	農村体験とグリーンツーリズム	農園リゾートThe Farm
⑥	多文化共生教育	在日クルド人コミュニティを訪問調査	川口市芝公民館
⑦	環境	公害の歴史と環境NPOの活動を学ぶ	足尾銅山
⑧	環境	生物多様性とごみ問題を考える	三番瀬海浜公園 東京都最終埋立処分場



東京ジャーミイ

(3)海外フィールドワーク（2年次希望者）

2年生の希望者10名程度が9泊10日でマレーシアのクアラルンプール及びペナン州に滞在し、各自の研究テーマに沿って実地調査を行う。事後には研究成果をレポートにまとめたり、外部の発表会に参加する者もある。主な訪問先と活動内容は次のとおりである。

クアラルンプールおよび近郊	地方部公立学校（SMS Sungai Pelwk）
	ブルーモスク
	都市部私立学校（Seri Cahaya School）
	商業施設（AEON Mall Shah Alam）
ペナン	市内フィールドワーク（B&Sプログラム）
	自然環境漁業調査（鳥類保護地区）
	民泊体験（スンガイ・アチエ村）
	沿岸漁民福利教会（PIFWA）植林センター
	観光開発調査（ペナン・ジョージタウン市内フィールドワーク）
	観光地調査（ガーニープラザ）
	漁民調査（スンガイ・パトゥ村）



開発公社にて



ペナン消費者協会にインタビュー

(4)課題研究テーマ（代表グループ）

2年次11月の最終発表で選出された優秀グループは、1月のSGH研究発表大会において、来場者・全校生徒の前で代表発表を行った。以下は、そのテーマ一覧である。

○ムスリム観光客が千葉県で食を楽しめるようになるためには（観光）
○普通って何だ？（教育）
○異常気象と農作物被害（環境）
○外国人が日本で不自由なく働ける方法（共生）
○台湾の食文化～なぜ台湾は屋台料理が発達しているのか？（共生）
○給食と未来社会（教育）
○外国人観光客向け地震対策マニュアル（観光）
○トイレからはじまる共生（共生・環境）
○School Life of Japan（教育）
○パパとママとぼく～日常生活で抱える問題～（共生）
○密航の現状と課題（環境）

(5)生徒の自己評価

2年次のレポート提出後に、2年間の課題研究の成果について、ルーブリック自己評価票により4段階で評価をさせた。集計結果は次のとおりである。（4が最高評価）

ルーブリックの観点	4	3	2	1
1 深い問題意識	6.9%	32.4%	51.0%	9.8%
2 明確な課題設定	6.2%	36.8%	41.7%	15.3%
3 十分な調査	5.9%	46.5%	39.3%	8.3%
4 多角的な分析・統合	5.6%	39.2%	47.4%	7.8%
5 互いを高める協働	15.4%	29.5%	36.1%	19.0%
6 伝わりやすい提案	4.2%	23.5%	55.9%	16.3%
7 議論を深める質疑応答	8.5%	45.6%	39.1%	6.8%
8 有効な提案	6.9%	33.0%	48.4%	11.8%
9 共生への視点	7.3%	22.4%	57.4%	12.9%